

品川支部

平成30年3月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

3月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

南泰分教会 神殿落成

二月十八日南泰分教会の落成奉告祭と創立八十周年記念祭が執り行われました。おめでとうございます。又、新しい神殿で二月二十八日には、支部の例会会場として使わせて頂きました。

（南泰分教会の元一日には二十八年十二月版の支部報に詳しく掲載されております）



新築された南泰分教会

☆支部行事のお知らせ

・支部例会三月三十日(二頁参照)

・神名流し

一日(木)十時から、大井町駅前にて

・在宅センターひのきしん

三月二十八日(水)午前九時半〜十一時

・教区ひのきしん

今月は五日、十七日の二回になります
担当は本品組ですので宜しくお願い致します

☆教務支庁からのお知らせ

・学生おちば帰り

本部における春の学生おちばかえり大会が
二十六日から二十九日まで開催されます
教区でも、募集しておりますのでお問い合わせ下さい

・鼓笛バンドコンクール

第四十四回は三月二十一日(水祝日)。
会場が今回は東武東上線大山駅に近く
板橋区立文化会館に移り行われます。
教区内の教会が多く参加し、一般的に
見てもレベルの高い優勝争いを見ることが
出来ます

・女子青年からのお知らせ

来年十一月三日に、第二十九回女子
青年大会が催されることが決定いたし
ました。
時間がありませんがこれに向け準備を兼
ねて支部の女子青年活動も活性化して
いきたいと思っておりますので、参加お願い致
します。
(品川支部委員長・中澤佳子)

・婦人会からのお知らせ

来月四月十九日(木)本部中庭にて
婦人会第百回の節目の総会が行われ
ます
総会終了後全員でのおつとめが予定さ
れています

・教区立教百八十一年記念祭

二年後に教区百十周年を控え例年通
り四月四日に記念祭が催されます。
おつとめ後、生駒大教会長 中川徳弘
先生の講話があり、その後各支部が
競います模擬店等があります。
品川支部は、最近数年恒例になり
ました五百食程度の焼きそばを出店
させて頂きます。
記念祭参加のお願いと、支部の模擬店
お手伝いをお願いいたします。
尚、エプロン等道具の用意はあります
ので当日お越しいただければお手伝い
頂けます。

| 拠点教会 | 4日号 | 11日号 | 18日号 | 25日号 |
|------|-----|------|------|------|
| 日本橋 | 手配り | 手配り | 手配り | 直送 |
| 本 荏 | 手配り | 手配り | 手配り | 直送 |
| 都 南 | 手配り | 手配り | 手配り | 直送 |
| 三ツ木 | 手配り | 手配り | 手配り | 直送 |
| 水豊田 | 手配り | 手配り | 手配り | 直送 |

時報手配り三月予定

品川支部例会

平成30年3月30日 (金)

11時開始

場所 本大崎分教会

(品川区大崎三丁目17-3)

内容 おつとめよろづよ八首 三下り目

東京教区、支部連絡事項

当該教会長三輪先生 挨拶

昼食の用意頂いてます

* 各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



教会紹介

本品川分教会元一日



初代寺田博太郎は明治三十五年十一月二七日父亀吉・母たみの男四人女三人の長男として、東京日本橋駿河町に生まれ、芝神明町で、育ちました。愛宕高等学校卒業し、父のつとめていた、東芝に入社、誠実な勤めぶりは、皆に親しまれました。大正十一年一月、あまり丈夫で有りませんでした。が歩兵第一連隊に入隊、報国の意気高く励まれていた時に、関東大震災で家屋は全焼、除隊してきていたが、何もなくなつて住まいをしながら行商したり、古い機械を拾ってきたり、古い機械を売ったりして生活をしていました。その後、三田の四国町に移り、機械工場を始めました。

昭和四年九月には大久保エイト結婚しました。品川に移り苦しい生活の中、母親がたおれ、昭和八年竹田先生からにをいをかけられました、熱心な何度かの勧めで母が初めて大教会に運び、すばらしい教えに感動して、それから信仰を始める事になりました。はじめから狭くなり、桐ヶ谷に移りました。戦争が始まり昭和十八年頃、山梨の身延山に疎開したのですが、動力が入らず仕事は出来なかつたそうです。子供が大勢いましたので、畑を作り生活をしておりました。この時、四男が医者から見はなされる様なしょうこう熱にかかりました。本荘の初代会長様のお助けにより身情の御守護を頂き、それを機に第七七期修養科に入學致しました。終了後は、おやさどふしん常勤ひのきしんに力の限り励まれ、さらに大教会長様のお声

に十年の長きにわたり班長のつとめを果たされました。終戦と同時に現在の所に引き上げて来ました。戻ってからは信仰が深まり、母も二十七年に修養科に行き、その後大教会の信者の修理を務めさせて頂いておりました。在る時、妊娠している心臓弁膜症の人に、にをいがかかり、一緒におちばに帰りましたが、家では次女が病気にかかりひどい熱を出したり、お地場に一緒に連れていった一番下の子は誤って花びんを割ってしまったり、その時「花びんを壊した」とは大した事はないが、もっと根のある信仰をしたら」と言われた事に母はこんな一生懸命やっているのにどうして、この様な事を言われなくて思ってしまったのかと一瞬から帰り、大教会で、その事を話しましたら、「教会になる事を心定めしなさい」と言われ、素直に心定めをしましたと

ころ、子供の熱はすっかり御守護頂きました。そして昭和三十一年十一月二十七日、本品川分教会の設立となったのです。奇しくも初代がおさづけの理を拝戴した同じ日だったそうです。初代は人情の方で、現会長の子供の事で未熟児で生まれ四ヶ月位した時、病院で、保育器での未熟児網膜症と診断された時も、付き添って頂いた初代は先生に「自分の目ととりかえる分けにはいかないでしょか」と先生に頼み込む様な方でした。二人の弟が五十代で出直し、また姉は最後の十年をひどい老人病院で過ごしたこと等考えると皆んなに見とられて八十歳で出直された事は幸せな一生だと思わせて頂きました。元々寺田家は全滅いんねんと聞かされましたが、お陰で家族は一人も欠けず、結構で通っております。